

「JENESYS2022」日中メディア対話会の記録

1. オンライン交流概要

【目的】日中メディア対話会は、コロナ禍下で対面での交流が叶わない中、新聞・通信、テレビなど日中のメディア関係者がオンラインで一堂に会し、日中双方より発表や自由討論を行い、日中メディア間の相互理解を深めることで日中関係の更なる発展の契機とすることを目指して実施しました。

【参加者】中国側：新聞・通信、テレビ等メディア関係者 13 名、うち発表者 6 名

日本側：新聞・通信、テレビ等メディア関係者 10 名、うち発表者 6 名

メディア研究者 1 名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数実績）
2022 年 4 月 19 日 東京都	【テーマ関連交流・意見交換】 ①趣旨・進行説明 ②協力機関挨拶 ③開会挨拶 ④基調講演 ⑤日中メディア関係者による発表・質疑応答 全体テーマ： 「日中国交正常化 50 周年と日中関係の行方」 発表テーマ： 1. 「日中間の『事実』の共有について」 2. 「歴史の十字路で正しい選択を」 3. 「ウクライナ危機と日中関係」 4. 「『異なる距離』から見る中日メディアの隣国イメージ」 5. 「異種混淆する日本のメディア環境と『参加』」 6. 「中日関係でメディアが果たす役割とは？」 7. 「尖閣諸島を巡る日中対立について」 8. 「日中間に刺さった『トゲ＝尖閣問題』をどう抜くか」	日中メディア関係者 12 名が目下日中両国の直面する問題について率直に意見交換を行いました。 発表を聞いた参加者からは、「中国のコロナ対策は過剰と言われるが、中国は広大で貧しい地域もたくさんあり、人口も日本とは桁違いに多いため少しの油断も許されず、日本と同じ感覚では防ぎきれない。政府のコロナ対策は多くの国民が支持している」「両国メディアは互いの悪いことしか報道しない。日中友好となるようなニュースを多く報じるべき」「日中国交正常化直後の 70～80 年代は日中の交流が大変盛り上がった。今年は国交正常化 50 周年ということで、今一度原点に戻り、友好を更に促進させるべき」といった声が聞かれました。 また、日本理解を深めるために、日本の若手研究者が日本メディアの現状を紹介しました。

	9. 「国交正常化の初心に戻って」 10. 「日本人ジャーナリストが見る、中国不動産業界」 11. 「日本の民衆の対中感情はなぜこんなに分裂しているのか？」 12. 「中国コロナ対策が与えた日中関係への影響」 13. 「ポスト真実時代のポピュリズムが中日の国民感情に与えた弊害と提案」 ⑥総括	コロナ禍で往来がストップする中、本対話会を通じて日中メディアが胸襟を開いて率直に意見交換する貴重な機会となったことがうかがえました。 (参加者：中国側 13 名、日本側 11 名)
--	--	--

2. 記録写真

	
2022 年 4 月 19 日 【テーマ関連交流・意見交換】 日中の社会問題や国際情勢について意見交換	2022 年 4 月 19 日 【テーマ関連交流・意見交換】 対話終了後の記念撮影

3. 中国側参加者の感想（抜粋）

◆中国メディア関係者

日本側参加者の「心を開いて本音で交流する」、「小異を残して大同に就く」、「話すこと 3 割、聞くこと 7 割」というコメントを聞いて、コミュニケーションの重要性を再確認しました。

また、ウクライナ危機の報道に関して、日本側参加者が日本の報道を振り返り、何かが足りないと感じ、その姿勢に深く考えさせられました。中国中央テレビの「新聞聯播」に注目し、ニュースの内容を詳しく分析したり、日中の報道の違いを比較している日本人がいることに大変驚き、多くの発見がありました。

今後、機会があったら日本へ行き、大学へ入学し、日本の政治、歴史、社会、文化、等について更に勉強したいと思います。

◆中国メディア関係者

オンラインでの発表を通じて、日本の同業者と先輩方の中国に対する関心分野が理解でき、自身の考え方や、今後の対日交流の方向性について考える機会となりました。

◆中国メディア関係者

コロナ禍で日本に行くのが困難な中、オンラインを通じて、古い友人と交流することができました。また、日本の同業者の国際的な時事問題に対する考え方がとても参考になりました。特に中日国交正常化 50 周年の年に実施したこのメディア対話会は更に有意義だと感じました。

◆中国メディア関係者

日本のメディア業界の方々とオンラインで直接交流ができて、あるテーマについて日本側の認識や態度を比較的正確に知ることができたのが収穫です。特に日本側の考え方の角度に、中国側と異なるところがあるのが非常に参考になりました。

4. 日本側参加者の感想（抜粋）

◆日本メディア関係者

それぞれの発言者の発言の後に意見を言う時間が設けられたのが、とてもよかったと思いました。そのおかげで、多くの参加者に発言の機会ができましたし、日中の参加者間で言葉のやりとりが生じ、まさに交流になっていたと思いました。時間的にも余裕ができ、全体の進行もスムーズになったと思います。やはり対話とは双方向であるべきで、参加者が一方的に自分の発表をするというのではなく、今回のように言葉の応酬があるのが好ましいと改めて感じました。

◆日本メディア関係者

中国ではコロナ禍で上海がロックダウンになるなど厳しい状況のなか、オンラインという形で交流できたのは貴重だった。発表でも触れたように、なかなか日中間で直接、コミュニケーションをとれないことが、現在の最大の問題であり、今回の「会合」はそのギャップを埋める役割を果たしたのではないかと感じました。

◆日本メディア関係者

日中関係というナショナリズムに還元されがちなトピックについて双方の事情通同士で忌憚なく対話できたと思います。中国のメディア事情についても勉強になりました。

◆日本メディア関係者

中国各地から様々なメディア関係者の声をきけた点がよかったと思います。全体として中国側は、日本人の対中感情が悪化しているのは、日本の報道機関が中国の悪い点ばかりとりあげ、良い点をとらないからだ、と主張していたように思いますが、日本側としては、報道機関は、国民感情を誘導するための宣伝機関ではないこと、中国に悪い点があればそのまま報道するのが自然であると考えている一方で、中国の良い点はもっと報道してもよいと考えていることなど、率直な意見交換ができたことは有意義だったと思います。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

中日媒体对话 郭至君论后真相危害 http://www.CRNTT.com 2022-04-21 00:11:45	中日媒体云相聚 深入交流克难前行 http://www.CRNTT.com 2022-04-21 00:33:49
 中评社国际部主任郭至君线上发言（中评社 梁帆摄） 中评社香港4月21日电（记者 尹子）日中友好会馆主办、上海外国语大学日本研究中心和键睿智库协办的“2022中日媒体对话会”日前举行，中国与日本各大主流媒体的相关负责人进行了理性对话。中国评论通讯社编委兼国际部主任郭至君与会发言，就“后真相”对中日国民感情的负面影响问题提出应对之策。 郭至君首先表示，后真相政治（post-truth politics）是一种政治文化，在2016年美国总统选举以及英国“脱欧”期间开始受到很大关注，当年，《牛津英语词典》宣布“后真相”（post-truth）成为年度词汇，由此引发广泛讨论。在社交网络日益发达的今天，“后真相”政治变得越来越普遍，所谓“后真相”，指的是忽视真相、不在乎事实的谣言，以各种似是而非和断章取义的言论，最终达到真假难辨的效果，即所谓的“雄辩胜于事实”。在后真相时代，人们把情感和感觉的评论放在首位，证据、事实和真相沦为次要甚至不重要。 从媒体和受众的角度来讲，“后真相”导致了以下几点严重的后果：一、媒体提供的新闻或信息越来越碎片化，以致于受众丧失理解全貌的能力。二、“信息茧房”（Information Cocoons）的增多使得刻意制造的错误信息让受众深信不疑，让“假新闻”比真新闻更受欢迎，导致偏激的价值观越来越多，极端民粹主义也愈加兴起。三、信任媒体报道的人越来越少，而媒体又为了吸睛选择更多地报道极端民粹主义者倾向的内容，从而使得不理性的声音越传越广，进而影响国家政策。郭至君认为，长此以往会形成负面循环，人们会失去探索真理的兴趣与能力，民主会萎缩，而善于影响大众情绪的政客会崛起，国家与国家之间的关系会由于刻意的操弄而恶化。	 中评社国际部主任郭至君参加会议（中评社 梁帆摄） 中评社香港4月21日电（记者 郭至君）由日中友好会馆主办、上海外国语大学日本研究中心和键睿智库协办的“2022中日媒体对话会”4月19日在线上举行。对话会期间，中日两国的数十位代表性媒体的传媒人各抒己见，热烈讨论，就正值邦交正常化五十周年的中日关系和目前复杂多变的国际大环境下中日面对的压力等话题畅谈各自的思考，增进了两国传媒界的相互交流和理解。 在对话会期间，中评社国际部主任郭至君以“后真相政治对中日国民感情的影响及应对”为主题进行了发言，她指出，“后真相”导致负面循环，长此以往，人们会失去探索真理的兴趣与能力，民主会萎缩，而善于影响大众情绪的政客会崛起，国家与国家之间的关系会由于刻意的操弄而恶化。她认为，“后真相”不能避免，中日两国的主流媒体主要应做到三点：第一、坚持新闻专业主义，摆事实，讲道理，以真实构筑诚信。第二、构建一定的正面报道架构，创造善意正循环。第三、中日两国的精英阶层应具备和平反战与亚洲命运共同体的大局观。
2022 年 4 月 21 日（中国評論通讯社） 「日中メディア対話会 郭至君がポスト真実の政治リスクについて語る」 ポスト真実が日本人と中国人の国民感情に与える悪影響に対して対応策を提言したことが紹介されました。	2022 年 4 月 21 日（中国評論通讯社） 「両国メディアがオンラインで一堂に会して交流を深め、問題を乗り越える」 日中参加者が各テーマについて、活発な議論を行ったことが紹介されました。

実施団体名：（公財）日中友好会館